

シュッコンカスミソウの高温期作型における マルチ資材の効果

福島県農業総合センター 会津地域研究所

1 部門名

花き—カスミソウ—環境調節

2 担当者

大竹真紀・星佳織

3 要旨

シュッコンカスミソウの主力である大輪系品種は、高温期の作型で奇形花の発生や短茎開花等による品質低下がみられ、課題となっている。マルチ資材を用いて地温上昇を抑制すると奇形花の発生が軽減できた。

- (1) マルチ下の地温は、タイベックシート<チョーハンシャ=ツインホワイトクール<白黒ダブルの順に低かった(図 1)。タイベックシートは、現地でも地温上昇を抑えた(図 2)。
- (2) 花芽分化と発達が高温期にあたる作型において、タイベックシートは奇形花の発生を軽減した(表 1 2)。
- (3) タイベックシートは透湿性があり、気化熱により放熱されるため乾きやすいので土壌水分を適正に管理する。

表1 シュッコンカスミソウの高温期作型におけるマルチ資材の違いと切り花品質

品種	マルチ資材	切り花調査 ¹⁾		花器の障害花茎率 ²⁾ (%)				平均 開花日 (月/日)	
		切り花長 (cm)	花径 (mm)	奇形花			蕾褐変		
				展開乱れ	花卉塊	緑化			
ペール	タイベックシート	82	a	11.2	46	49	0	12	9/18
スター	チョーハンシャ	81	ab	11.5	76	70	8	1	9/17
	ツインホワイトクール	78	b	11.5	57	64	7	5	9/15
	白黒ダブル	79	ab	11.7	69	79	14	3	9/17
アルタイ	タイベックシート	92	a	9.9	2	6	0	15	9/21
ルMD	チョーハンシャ	94	a	9.9	8	23	0	11	9/22
	ツインホワイトクール	94	a	9.9	3	10	0	11	9/20
	白黒ダブル	92	a	9.9	6	18	0	7	9/23

平成30年。試験地:会津地域研究所。7月12日定植、7月26日摘心。遮光資材W35設置。n=3 同一品種において、異符号間に5%水準で有意差あり(Tukey法)。1) 切り花は基部2cm残して収穫、花径は満開状態の小花を調査。2) 花器の障害: 奇形花(花卉の展開乱れ、花卉塊(ダンゴ花)、花卉の緑化)、蕾褐変は切り花1本あたり4個以上障害が発生した切り花本数の割合。

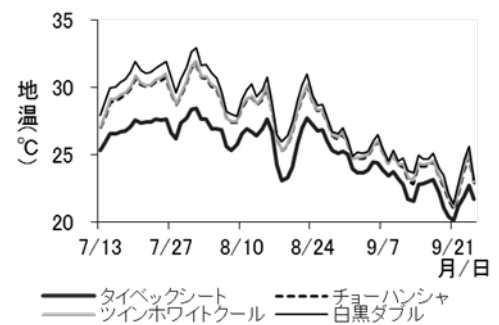


図1 マルチ資材と日平均地温
会津地域研究所 平成30年

表2 シュッコンカスミソウの高冷地栽培におけるマルチ資材と切り花品質

品種	マルチ資材	切り花調査 ¹⁾		花器の障害花茎率 ²⁾ (%)				平均 開花日 (月/日)
		切り花長 (cm)	花径 (mm)	奇形花			蕾褐変	
				花柱露出	展開乱れ	花卉塊		
ペール	タイベックシート	78	10.2	18	22	38	17	8/20
スター	白黒ダブル	82	9.9	60	45	46	48	8/18
	t検定	*	n.s.					
アルタイ	タイベックシート	88	8.5	0	0	6	34	8/18
ルMD	白黒ダブル	89	8.3	6	17	10	52	8/19
	t検定	n.s.	n.s.					

平成30年。試験地:昭和村矢ノ原。6月25日ポットピンチ苗定植。n=3 *は、p<0.05で有意差あり。1) 切り花は出荷規格に準じて収穫、花径は満開状態の小花を調査。2) 花器の障害: 奇形花(花卉の展開乱れ、花卉塊(ダンゴ花)、花卉の緑化)、蕾褐変は切り花1本あたり4個以上障害が発生した切り花本数の割合。

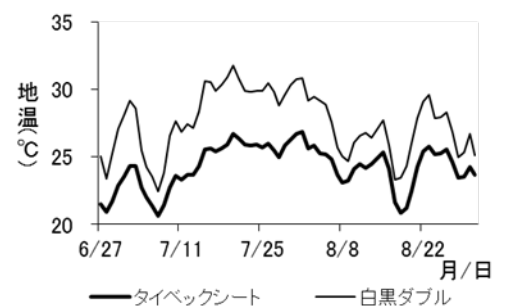


図2 マルチ資材と日平均地温
昭和村現地 平成30年

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成29年度~30年度
- (2) 研究課題名 「ソバ」シュッコンカスミソウの生産拡大に向けた高品質安定生産技術の確立
- (3) 参考となる成果の区分 (終了参考)

5 主な参考文献・資料

なし